

新町への基礎固め

平成16年3月、定例議会において、山口町長が平成16年度施政方針を発表しました。

合併予定日まで残り10カ月を残すのみとなり、いよいよ大詰めを迎えた今年度の方針を紹介いたします。

(本文は一部抜粋しています)

平成16年度は、町制施行50周年という記念すべき年であり、その同じ年に3町合併と薩摩町にとって大転換の年です。私自身、責務の重さを感じ、全身全霊をもって今後の業務に励みたいと考えているところです。

とを基本としています。

県では、平成15年6月以降歳入歳出両面で再度徹底した見直しを進め、平成15年12月鹿児島県財政改革プログラム(改訂)をまとめ財政運営の基本方針が示されています。それらによる徹底した節約策を進め、平成16年度一般会計の総額は8,570億8,700万円となっています。このように国県の極めて深刻な財政事情が続く中、町の財政収入で50%以上を依存する交付税(赤字地方債を含む)が、平成15年度と比較して12%、13%の減となることが予想されています。

〔国・県の動向〕

国の平成16年度予算編成は、これまでの「行革断行予算」という基本路線を継続し、構造改革を一層推進し歳出全体の徹底した見直しをおこない、平成15年度の水準以下に抑制することになっています。このため、地方財政計画の歳出も徹底して見直すこととし、定員削減、給与関係費の抑制や地方単独事業の抑制を図り地

〔市町村合併問題〕

住民意向把握の住民説明会や2回のアンケート調査を実施し、平成15年4月9日には法定協議会を設置しました。法定協議会は、これまで11回開催され、全協定項目の46項目と全調整項目の1,091項目について協議が終了。なお調整項目で合併までに調整するものは、各専門部会及び幹事会で協議し、法定協議会に随時報告されます。

今後の予定は、4月から5月にかけて住民説明会を開催し、住民の理解を得て6月に合併協定書の調印、合併議案の上程となり、3町議会とも可決されれば県へ申請し、9月の県議会で審議されます。可決されれば総務大臣の告示を経て平成17年1月11日に新町「さつま町」が誕生することになります。

協議の内容等も決して平坦な事だけではないと思います。が、合併の目的等、原点に返りながら薩摩町にとって、町民にとって一番大事なことはいかなすべきか等、私自身

よく考え、町民の皆様のご理解をいただき、合併の目標期日平成17年1月11日に向けて努力してまいります。



〔予算編成〕

本年度予算編成では第四次薩摩町振興計画を基本として編成しました。

歳入は、地方交付税の削減と12・0%、国庫補助金の削減が3年間で4兆円程度、特例地方債が26・5%減という厳しい内容が見込まれ、その減額分は繰入金をはじめとし事業量の確保を図ることが

できるよう新たに地域再生事業債等により補てん措置を講じることになりました。

歳出は、庁舎建設工事について平成16年度完成するべく予算編成しました。また一層の「内部努力による収入の確保」、「受益者負担の適正化」等により財源の確保を図り、「更なる経費の節減」、「徹底した事務事業の見直し」、「継続事業の早期完成」等に配慮しながら経常経費の節減で、一般会計の予算額を42億3,600万円としたところです。

〔庁舎建設〕

平成13年11月、庁舎の耐震調査を実施し、その結果に基づき平成15年度庁舎建設委員会を設置し検討しました。合併の協定項目の中で、総合支所方式の確認がされ、また地域、防災、福祉等あらゆる面での拠点施設という位置付けで、それに対応できる庁舎建設を計画しています。併せて、基幹系電算システムデータ統合整備事業、内部情報システム整備等、電算インフラ整備の負担金を見込んでいます。